

# 風土記の丘の花だより<sup>135</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2022年5月21日)

見事に咲いていたエゴノキの花が、これまた見事に散り果てました。サクラの散り際は潔いと言われますが、エゴノキも気持ちの良い散り方をするものだと改めて思いました。今では、もう小さな実が付いています。



さて、そのエゴノキの近くにネジキが白い花を咲かせています。釣り鐘状の透き通るような白い花が並んで咲いています。ネジキはツツジの仲間では花はドウダンツツジなどに似ています。これは万葉植物園で撮りましたが、園内の通路沿いにもよく見られます。近くで見ると、白というより、半透明という方が似合うような本当にきれいな花です。



谷村家や小早川家住宅にハクチョウゲの白い花が咲いています。この花はご自宅のお庭にも植えておられるかも知れませんね。アカネ科の植物で漢字では「白丁花」と書きます。名前だけ聞くと白鳥に関係あるのかなと思いますが、「白い丁字型の花」ということです。写真は園芸種で、葉に斑の入ったフイリハクチョウゲです。



私はよく「こんな草にも名前があります」と話します。この草もその一つです。誰一人立ち止まって眺めることも、通りすがりに目をやることもないでしょう。ただの雑草に過ぎませんからね。でもちゃんとアオカモジグサという名前があります。イネ科の雑草は特に厄介者扱いされますね。近縁のカモジグサというのも同じぐらいたくさん生えています。その違いは・・・知ったところで何のタシにもならないので、やめておきます。



この黄色い花を見て、ちょっと植物に詳しい方ならカタバミだとお分かりでしょう。確かにカタバミですが、これはオッタチカタバミといって、茎がまっすぐ立つタイプのカタバミです。これは外来植物で今ではいたるところで見られます。反対にカタバミは風土記の丘では見つけにくいですね。

松下